

イメージに關与する色彩の三属性

石原久代

Three Attributes of Color That Affect Image

Hisayo ISHIHARA

緒 言

色彩のイメージに關する研究はこれまでに数多く報告されているが、それらの多くは、いわゆるオスグッドの力量、活動、評価の3因子を軸として構成されたイメージを中心に取り上げたものが多かった。

一方、筆者は数年前から対人認知に被服がどのように關与するかについて、同様にオスグッドの3因子を中心に組み立てたイメージ用語を用いて検討し、報告してきた。

その結果、我々は初対面の人物を判断するとき、その人物に關する予備知識がなく、一度も会話したことがない場合、その人物を知る手掛かりとしては、顔面や体型の諸因子よりも着用している被服の色彩や形態が大きく關与し、さらにその色彩や形態が特徴的なものほど、印象への影響力が大きいことが明らかになった。

そこで本研究においては、対人認知に關わるイメージ用語を中心に取り上げ、それらのイメージに色彩の色相・明度・彩度の三属性がどのように關わっているかについて検討を行うことにより、対人認知において好印象を与える服装色を選び出す手掛かりにしたいと考える。

方 法

1. 性格の自己認知と他者から見られたい性格

まず、対人認知に關わるイメージ用語と私達が好印象と考えるイメージとの關係を知るために、先に報告した被服が対人認知に及ぼす影響^{1～3)}の検査時に用いた、いわゆる力量性、活動性、評価性の因子をもち、比較的視覚から性格判定しやすいと考えられるやさしい—きつい、積極的な—消極的な、陽気な—陰気な、男性的な—女性的な、上品な—下品な、大人っぽい—子供っぽい、奇抜な—平凡な、派手な—地味な、おとなしい—荒々しい、好感がもてる—好感がもてないの10形容詞対を用いて、本学学生151名(19～20歳)により性格の自己認知、および他者からどのように見られたいかについて、SD法による5段階評定の検査を行った。

検査は1992年9月に2項目を同時に行ったが、両項目を同時回答することによる評価の歪みも考えられるため、1996年5月に同じ形容詞対を用いて、他者からどのように見られたいかを、その一か月後に自分の性格の自己認知について、同じ被験者を用いて再検査した。なお、この検査に際しての被験者には同じ形容詞対を提示するため、先入観のない被験者の方が望ましい

と考え、先の検査とは異なる203名の学生(18～20歳)を被験者として用いた。また、今後の実験の評定段階も考え、後者は7段階評定にて行い、検査にあたって5段階評定、7段階評定ともに各段階には、程度量副詞は提示せず、数値のみを与えて判断させた。さらに、イメージ用語は順序効果がおきないように、両極性評定尺度の提示順位および左右の位置を検査ごとに変えて実施した。

これらの結果を数値化し、性格の自己認知をもとにクラスター分析を行い、どのように見られたいかとの差について検討を行った。

2. イメージ用語と色彩の属性の関係

イメージ用語としては、表1に示したような、大橋ら⁴⁾の対人認知の研究に用いられた形容詞対の中から比較的着装評価と関係あると思われるイメージ用語に先の10形容詞対を加えた計56形容詞対112語を用いた。

実験は、被験者(本学学生20～22歳)100名を用いて、これら112語について、各用語を最も連想する色彩を色表から選出させた。用いた色彩は表2に示したような日本色彩研究所配色体系(PCCS)におけるv(ビビット)、lt(ライト)、p(パール)、dk(ダーク)、g(グレイシュ)の5トーンについて、24色相の内の偶数番号をそれぞれ12色、および無彩色としてW(白)、ltGy7.5、mGy5.5、dkGy3.5、Bk(黒)の5色を加えた計65色とした。なお、色彩と結

表1 イメージ用語

1 やさしい	きつい	29 落ち着きのある	落ち着きのない
2 積極的な	消極的な	30 軽薄な	重厚な
3 陽気な	陰気な	31 感情的な	理性的な
4 男性的な	女性的な	32 大胆な	小心な
5 上品な	下品な	33 円満な	かどのある
6 大人っぽい	子供っぽい	34 うきうきした	沈んだ
7 奇抜な	平凡な	35 図々しい	遠慮深い
8 派手な	地味な	36 狭量な	度量のある
9 おとなしい	荒々しい	37 健康的な	病的な
10 好感がもてる	好感がもてない	38 卑屈な	堂々とした
11 粗野な	洗練された	39 だらしない	きちんとした
12 親切的な	不親切的な	40 庶民的な	貴族的な
13 人のよい	人の悪い	41 強情な	妥協的な
14 陰鬱な	朗らかな	42 信じやすい	疑い深い
15 弱気な	強気な	43 几帳面な	ずさんな
16 不潔な	清潔な	44 こせこせした	おうような
17 物わがりのよい	頑迷な	45 不活発な	活発な
18 強い	弱い	46 抜け目のない	まのぬけた
19 生意気な	生意気でない	47 気分の動揺する	気分の安定した
20 友好的な	戦闘的な	48 気さくな	気難しい
21 無愛想な	愛想のある	49 根気のよい	根気のない
22 緊張した	ゆったりした	50 うぬぼれの	自己卑下の
23 礼儀正しい	ぶしつけな	51 やわらかい	かたい
24 近づきたい	人なつっこい	52 魅力のある	魅力のない
25 神経質な	のんきな	53 飾り気のない	みえっぱりな
26 静かな	にぎやかな	54 暗い	明るい
27 あきっぽい	長続きする	55 感じのよい	感じの悪い
28 かわいらしい	にくらしい	56 無分別な	分別のある

表2 色彩試料のマンセル値

No	PCCS	マンセル値	No	PCCS	マンセル値	No	PCCS	マンセル値
1	v2	4R4.5/14.0	23	lt22	7P6.5/5.5	45	dk18	3PB1.5/1.5
2	v4	10R5.5/14.0	24	lt24	6RP7 0/6.0	46	dk20	9PB1.5/1.5
3	v6	8YR4 0/13.5	25	p2	4R8.5/2.0	47	dk22	7P1 5/1.5
4	v8	5Y8.0/13 0	26	p4	10R8 5/2.0	48	dk24	6RP2.0/1.5
5	v10	3GY7 0/12 0	27	p6	8YR9 0/2.0	49	g2	4R4.0/2 0
6	v12	3G5 5/11.0	28	p8	5Y9.0/2.0	50	g4	10R4.0/2.0
7	v14	5BG4.5/10 0	29	p10	3GY9.0/2 0	51	g6	8YR4 5/2.0
8	v16	5B4.0/10.0	30	p12	3G8.5/2.0	52	g8	5Y4.5/2.0
9	v18	3PB3 5/11.5	31	p14	5BG8.5/2.0	53	g10	3GY4.5/2.0
10	v20	9PB3.5/11.5	32	p16	5B8.5/2.0	54	g12	3G4 0/2 0
11	v22	7P3.5/11 5	33	p18	3PB8.0/2 0	55	g14	5BG4 0/2.0
12	v24	6RP4.0/12.5	34	p20	9PB8 0/2.0	56	g16	5B4 0/2.0
13	lt2	4R7.5/6.5	35	p22	7P8 0/2.0	57	g18	3PB3.5/2 0
14	lt4	10R8 0/6.5	36	p24	6RP8.5/2.0	58	g20	9PB3 5/2.0
15	lt6	8YR8.5/6 5	37	dk2	4R2.0/1.5	59	g22	7P3.5/2.0
16	lt8	5Y9.0/6 0	38	dk4	10R2.0/1.5	60	g24	6RP4.0/2.0
17	lt10	3GY8.5/5.5	39	dk6	8YR2.5/1.5	61	W	N9.5
18	lt12	3G8.0/5.0	40	dk8	5Y2.5/1.5	62	ltGy	N7.5
19	lt14	5BG7.5/5.0	41	dk10	3GY2.5/1 5	63	mGy	N5.5
20	lt16	5B7.0/5.0	42	dk12	3G2.0/1.5	64	dkGy	N3.5
21	lt18	3PB6.5/5 5	43	dk14	5BG2 0/1.5	65	Bk	N1.5
22	lt20	9PB6.5/5.5	44	dk16	5B2.0/1 5			

び付かない用語については、無理に結び付けず無回答とさせた。色彩の提示は上記の 65 色を一辺が 1.5cm の正方形に切断し、これをトーン・色相別に N6.0 のグレーの台紙に貼付したものをを用いた。

実験条件としては、北窓自然日光下の照度 1000lx 以上にて行い、実験実施時期は 1996 年 5 月、実施にあたっては、光の安定を考慮して午前 10 時から 12 時の間で行った。各イメージで取り上げられた色彩の結果から、色相、明度、彩度の各属性がイメージにどのように影響しているかについて検討を行った。

結果および考察

1. 性格の自己認知と他者から見られたい性格

性格の自己認知および他者から見られたい性格についての 151 名の平均を図 1 に示した。今回対象とした学生は、自分を陽気な、女性的な、子供っぽい、平凡な、地味なと自己認知しており、他者から見られたい性格との間に大きな差が認められたのは、やさしい—きつい、積極的な—消極的な、上品な—下品な、大人っぽい—子供っぽい、好感がもてる—好感がもてない等の形容詞対であった。

次に、各人の性格の自己認知と他者から見られたい性格の相関係数を算出した。やさしい—

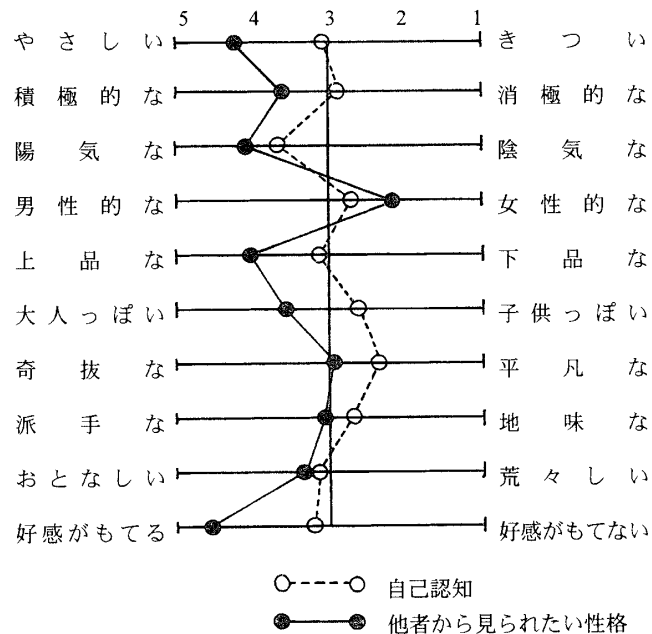


図1 性格の自己認知と他者から見られたい性格

きつい、大人っぽい—子供っぽい、おとなしい—荒々しい、好感がもてる—好感がもてないについては0.20以下と相関係数はかなり低いものであった。また、最も高い数値を示した男性的な—女性的なにおいても0.475、寄与率にすると0.226と高い相関は得られず、自分の性格の自己認知と他者から見られたい性格にはかなり差があると思われる。

また、全被験者の平均値は図1のようであっても、例えば非常に積極的なと自己認知している人物が反対の性格に見られたいというように、性格の自己認知の違いによって他者から見られたい性格が異なることも考えられるため、自己認知について、151名の自己認知のデータを重心法によるクラスター分析により分類したところ、類似度60%でA～Gの7クラスターに分類された。

その結果をもとに各クラスターに属した人物の性格の自己認知と他者から見られたい性格の平均値を図2に示した。各クラスターの特徴をみるために、各形容詞対について被験者全体のデータの標準偏差を求め、平均値を中心に $\pm 1\sigma$ の範囲に自己認知のクラスター内平均が入らない形容詞を取り上げてみると、Aクラスターは消極的な、陽気な、Bクラスターでは消極的な、子供っぽい、好感がもてない、Cクラスターは子供っぽい、平凡な、地味な、Dクラスターでは陰気な、女性的な、上品な、好感がもてるがあげられる。また、Eクラスターはすべて中間的であり、Fクラスターはやさしい、陽気な、好感がもてる、Gクラスターはきつい、積極的な、陽気な等があげられ、各クラスターの特徴といえる。しかし、自己認知にはこのような特徴があげられるが、他者から見られたい性格については、各クラスターの平均値と全被験者の平均値との相関係数を図中に付記したが、いずれも0.90以上を示しており、かなり高い相関が得られている。これらの結果より他者から見られたい性格はいずれの被験者も共通しており、やさしい、積極的な、陽気な、女性的な、上品な、大人っぽい、好感がもてると見られたいと考えている。

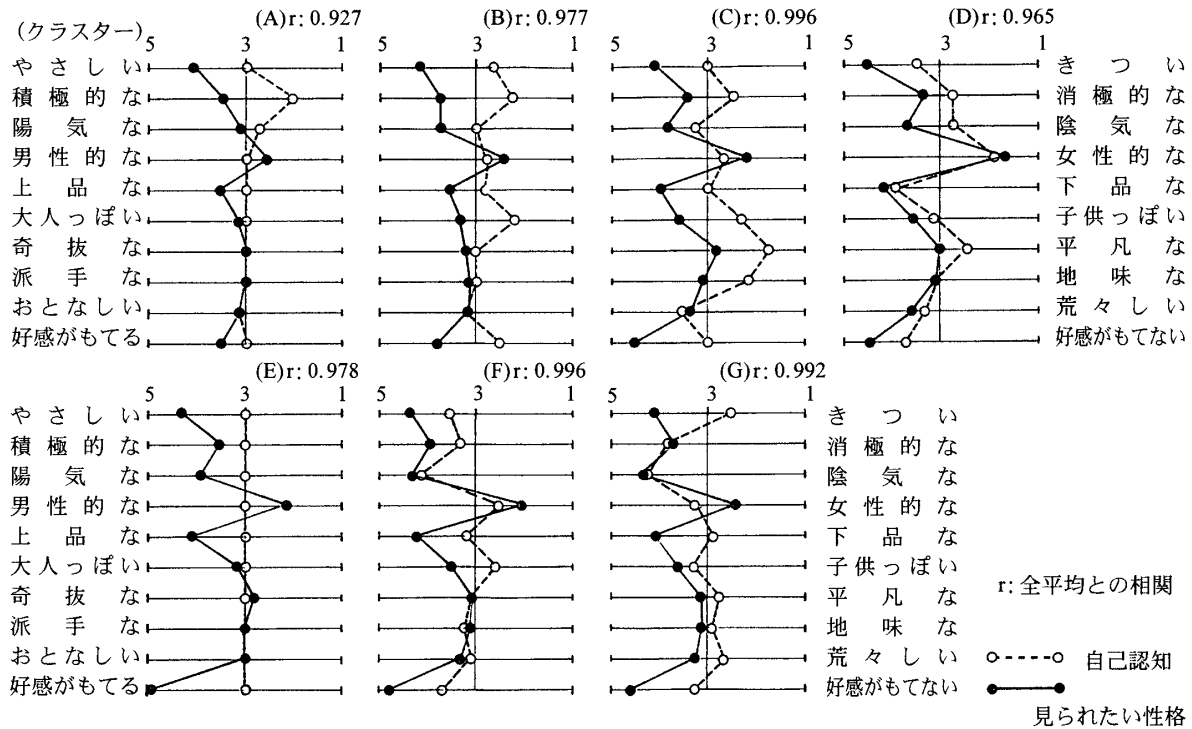


図2 クラスター別自己認知と他者から見られたい性格

2. イメージ用語と色彩の属性の關係

表3に各イメージに關与する色彩の出現頻度の上位3色を取り上げ、その出現率をPCCS記号の右欄に示した。まず、やさしい—きついついについて、「やさしい」にはp2(うすいピンク)、p6(うすいベージュ)、p4(うすい黄みのピンク)など暖色系の高明度・低彩度の3色があげられ、「きついつい」については、v2、v22、v24といったあざやかな赤、紫、赤紫などがあげられている。両者はこれら各3色で約60%を占め、色彩とイメージが明確に結び付いているといえる。

この他に結び付きの強いイメージとして、第1位の色彩に最も高い出現率を示したのは「感情的な」であり、v2の色彩に62%もの被験者が同じイメージを持っているといえる。また、上位3色で60%以上の出現率を示し、強く結び付いている用語では、「積極的な」とv2、v4(あざやかな赤みのオレンジ)、v6(あざやかな黄みのオレンジ)、「陽気な」とv4、v6、v8(あざやかな黄)、「男性的な」とv18(あざやかな青)、dk18(暗い青)、v16(暗い緑みの青)、「奇抜な」とv22、v2、v8、「派手な」とv2、v24、v22、「強気な」とv2、v4、v6、「強い」とv2、Bk、dk18、「にぎやかな」とv4、v6、v8、「かわいらしい」とp2、lt4(黄みのピンク)、p6、「大胆な」とv2、v6、v4、「活発な」とv4、v2、v6、「やわらかい」とp2、p6、p4、「暗い」とBk、dkGy(暗い灰)、dk18があげられる。しかし、これらのどの用語においても、用語対にすると一方の用語の方はウエイトが低く、両用語ともが明確なイメージ化にはつながっていない。

なお、比較的近い用語と考えられる「強気な—弱気な」と「強い—弱い」についてみると、「弱気な」と「弱い」について、順位は異なるものの上位3色に同じ色彩があげられているのに対して、「強気な」には暖色系の高彩度の3色があげられ、「強い」についてはv2、Bk、dk18と赤以外は低明度の2色があげられており、両者の色彩イメージは色彩との関連性からは異なっているといえる。

表3 イメージに關与する色彩の出現頻度(上位3色)

(単位:%)

NO	イメージ用語	順位						イメージ用語	順位					
		1		2		3			1		2		3	
1	やさしい	p2	34	p6	13	p4	11	きつい	v2	25	v22	23	v24	12
2	積極的な	v2	25	v4	21	v6	16	消極的な	p8	25	p10	8	p18	7
3	陽気な	v4	34	v6	21	v8	15	陰気な	dkGy	15	dk8	9	dk22	8
4	男性的な	v18	29	dk18	20	v16	13	女性的な	lt2	23	p2	18	lt24	10
5	上品な	W	9	lt24	8	lt20	6	下品な	v22	33	dk8	12	0	9
6	大人っぽい	Bk	22	v24	13	dk24	9	子供っぽい	p2	35	v8	8	p4	8
7	奇抜な	v22	30	v2	18	v8	16	平凡な	p8	23	W	17	lt10	5
8	派手な	v2	33	v24	21	v22	20	地味な	dk8	13	g8	12	dk6	11
9	おとなしい	p6	22	p8	14	p2	11	荒々しい	v8	15	v22	13	v20	8
10	好感がもてる	lt18	19	v18	10	lt2	8	好感がもてない	v22	30	dk22	6	dk8	5
11	粗野な	0	10	dk18	8	dk10	7	洗練された	v18	21	lt18	8	Bk	8
12	親切な	lt2	14	lt4	14	p4	7	不親切な	v22	21	Bk	6	lt22	6
13	人のよい	lt6	11	lt14	8	p6	7	人の悪い	dk22	14	v22	13	Bk	10
14	陰鬱な	dkGy	10	dk18	8	Bk	8	朗らかな	v6	16	lt6	13	v4	6
15	弱気な	p10	19	p8	14	p6	11	強気な	v2	44	v4	9	v8	8
16	不潔な	dk8	13	g8	13	g10	8	清潔な	W	29	p18	16	lt18	11
17	物わがりのよい	v12	11	lt12	11	v18	8	頑迷な	0	11	Bk	8	dk18	8
18	強い	v2	38	Bk	22	dk18	8	弱い	p8	17	p10	14	p6	14
19	生意気な	v22	24	v4	10	v20	10	生意気でない	p6	12	p2	12	p10	10
20	友好的な	lt6	9	lt2	9	v6	7	戦闘的な	v2	43	v22	9	Bk	6
21	無愛相な	dk18	13	dkGy	8	dk24	7	愛想のある	lt2	13	v6	11	lt6	10
22	緊張した	v18	16	v8	10	v16	10	ゆったりした	p6	10	lt6	8	p8	8
23	礼儀正しい	v18	11	W	9	lt18	8	ぶしつけな	v22	29	v4	6	v2	5
24	近づきたい	v22	20	Bk	12	dk24	11	人なつっこい	lt6	12	lt4	12	lt8	10
25	神経質な	v8	10	v20	7	lt22	6	のんきな	p8	17	lt4	7	lt8	7
26	静かな	p18	22	p16	14	lt18	7	にぎやかな	v4	34	v6	21	v8	18
27	あきっぽい	v8	22	v6	7	v20	6	長続きする	dk18	9	dk6	8	0	7
28	かわいらしい	p2	39	lt2	19	p4	10	にくらしい	dk22	16	v22	15	0	8
29	落ち着きのある	dk18	14	lt18	6	v14	6	落ち着きのない	v8	15	v22	13	v20	10
30	軽薄な	v22	15	v8	11	lt22	7	重厚な	dk18	14	dk16	13	dk2	12
31	感情的な	v2	62	v4	8	v24	7	理性的な	v18	21	dk18	13	v16	6
32	大胆な	v2	38	v6	13	v4	10	小心な	p8	20	p10	10	p18	8
33	円満な	lt6	13	lt4	13	v6	11	かどのある	dk18	10	v22	10	v18	8
34	うきうきした	v6	23	v8	10	lt2	9	沈んだ	dk18	10	dk8	10	dkGy	10
35	図々しい	v22	18	v2	12	v8	10	遠慮深い	dk14	7	dk10	7	0	6
36	狭量な	0	16	dk22	6	p8	6	度量のある	v2	16	0	10	v4	10
37	健康的な	v6	24	v4	12	v2	10	病的な	ltGy	11	p18	10	dk8	9
38	卑屈な	v22	8	dk22	7	g10	7	堂々とした	v2	34	v18	11	v16	7
39	だらしない	dk8	12	0	6	v8	6	きちんとした	v18	31	v12	7	W	7
40	庶民的な	lt8	11	p6	8	lt6	8	貴族的な	v20	13	v22	13	v24	8
41	強情な	v2	17	v24	13	Bk	7	妥協的な	p10	11	p8	11	p6	6
42	信じやすい	W	8	lt8	7	p4	7	疑い深い	Bk	9	dk24	7	0	6
43	几帳面な	v18	15	lt18	8	dk18	6	ずさんな	0	15	v22	13	dk8	7
44	こせこせした	0	29	v8	8	v22	6	おうような	0	29	v4	7	lt6	7
45	不活発な	dk8	13	dk6	8	dkGy	8	活発な	v4	29	v2	23	v6	23
46	抜け目のない	v22	12	v18	11	0	8	まのぬけた	p8	22	p6	11	p10	11
47	気分の動揺する	v2	12	v22	8	v4	7	気分の安定した	v12	11	lt18	7	v14	7
48	気さくな	lt8	12	v6	11	v10	8	気難しい	Bk	9	dk22	8	dk10	6
49	根気のよい	v18	8	dk18	6	dk12	6	根気のない	v22	14	lt22	6	p12	5
50	うぬぼれの	v22	21	v2	14	v24	13	自己卑下の	0	6	p10	6	dkGy	6
51	やわらかい	p2	25	p6	21	p4	16	かたい	Bk	27	dk18	19	v18	8
52	魅力のある	v24	18	v2	12	v18	12	魅力のない	dk8	11	g10	6	g8	6
53	飾り気のない	W	19	p8	8	dk6	5	みえつぱりな	v22	19	v24	16	v2	12
54	暗い	Bk	38	dkGy	17	dk18	7	明るい	v6	18	v2	16	v8	14
55	感じのよい	p2	9	lt6	9	lt4	8	感じの悪い	v22	16	dk22	11	dk8	10
56	無分別な	v22	16	0	16	v20	5	分別のある	v18	12	0	11	lt18	8

※ PCCS 記号中「0」はイメージできないと回答されたもの

さらに、最も出現頻度の高い色彩でさえ 10 % に満たないイメージ用語には「上品な」「友好的な」「長続きする」「遠慮深い」「卑屈な」「信じやすい」「疑い深い」「気難しい」「根気のよい」「自己卑下の」「感じのよい」などがあげられるが、これらのイメージ用語は、無回答への各頻度が決して高くないことから、イメージと結び付きにくいのではなく、人によってイメージされる色彩が異なり、全体としての傾向が定まらない色彩といえる。また、これら 10 % に満たないイメージ用語の中で対語ともに出現したのは「信じやすい—疑い深い」の一对のみであり、残りの用語については、対語の一方のみに系統性がみられている。

なお、無回答が 1 位にきている用語には、「粗野な」「頑迷な」「狭量な」「ずさんな」「こせこせした」「おうような」「自己卑下の」の 7 用語があげられ、色彩と結び付きにくい用語であるといえる。このように結び付きにくい用語が仮にイメージ用語として色彩関係の実験過程で使われても、判断できるかどうかの確認は、通常の SD 法ではほとんど確かめられずに進められることが多い。無理な判断による歪みが生まれてくることも考えられるため、今後の使用時には検討する必要があると思われる。

次に、各イメージ用語について、色相、トーン別に集計した結果を表 4-1、表 4-2 に示した。今回の実験で用いた全 112 用語を全体的にみると、色相においては色相番号 2 の 4R (赤) の出現が最も多く、出現総頻度が 1300 ポイントを得ており、イメージに關与しやすい色相であるといえる。次いで色相番号 8 の黄、18 の青、22 の紫の順となっている。これらは、いずれもマンセル表色系の基本色相であるが、色相番号 12 の緑については、基本色相でありながら出現率は少なく、イメージへの影響の少ない色相であるといえる。また、この緑を中心に黄緑、青緑などの色相も総頻度としては無彩色より少なくなっている。

また、トーンについては、高彩度の v トーンの出現総頻度が圧倒的に高く、全体の約 40 % を占め、イメージとの結び付きが非常に強いトーンである。次いで、高明度・低彩度の p トーン、低明度の dk トーン、高明度・中彩度の lt トーンの順となっている。また、最も出現率の低いトーンは中明度・低彩度の g トーンであるが、他のトーンに比べて特に出現率は低く、イメージへの影響が非常に小さいといえる。これら色相とトーンとの影響について全体としてみると、イメージ用語対には色相よりトーン、すなわち明度・彩度の方が大きく影響していると考えられる。

各イメージ用語別にみると、「感情的な—理性的な」「ぶしつけな—礼儀正しい」「気分の動揺する—気分の安定した」「几帳面な—ずさんな」「無分別な—分別のある」「根気のない—根気のよい」「おうような—こせこせした」の 7 イメージ用語対は v トーン同士に高い出現率を示していることから、明度・彩度の影響はほとんどなく、色相が大きく影響するといえる。また、「戦闘的な—友好的な」「貴族的な—庶民的な」「下品な—上品な」「かどのある—円満な」「男性的な—女性的な」「好感がもてない—好感がもてる」「近づきがたい—人なつっこい」「不親切な—親切な」の 8 イメージ用語対は高彩度の v トーンと高明度・中彩度の lt トーンに高い出現率を示しており、両トーンが明度・彩度の関係において、比較的近いことから、色相の影響の方が大きいと考えられる。

次に、「見栄っ張りの—飾り気のない」「明るい—暗い」は高彩度の v トーンと低彩度の g トーンの出現であり、両トーンに明度差がそれほどないことから、彩度の影響が強い用語であるといえる。

また、「やわらかい—かたい」「かわいらしい—にこらしい」「子供っぽい—大人っぽい」をはじめとする p トーンと dk トーンの対、および「愛想のある—無愛想な」「人のよい—人の悪い」

表4-1 色相・トーン別出現率 (1~28)

(単位: %)

No	イメージ用語	色 相												ト ー ン					Gy	無答
		2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	v	lt	p	dk	g		
1	やさしい	37	13	16	8	1	8	3	3	0	0	0	9	0	15	83	0	0	2	0
	きつい	25	2	6	6	0	0	1	2	7	4	25	14	84	2	0	6	0	7	1
2	積極的な	7	3	5	27	9	2	5	11	9	4	4	1	1	3	69	5	9	11	2
	消極的な	27	21	16	9	4	4	0	2	8	1	0	5	91	4	2	0	0	0	3
3	陽気な	15	36	24	19	3	3	0	0	0	0	0	0	83	16	1	0	0	0	0
	陰気な	1	4	5	9	6	1	3	5	7	11	18	7	4	1	2	42	28	21	2
4	男性的な	2	0	1	2	0	3	6	21	49	1	2	1	46	1	0	37	4	12	0
	女性的な	49	12	7	1	0	0	0	1	0	2	3	21	18	46	31	1	0	4	0
5	上品な	5	5	3	7	0	2	4	4	10	17	9	20	18	32	28	7	1	11	3
	下品な	6	2	3	19	2	1	0	0	0	7	38	9	50	3	2	23	9	4	9
6	大人っぽい	3	1	0	0	4	0	2	3	12	10	15	26	24	11	1	38	2	24	0
	子供っぽい	40	12	11	24	2	3	0	0	0	0	1	6	19	23	57	0	0	1	0
7	奇抜な	18	13	2	16	1	2	0	0	2	4	33	9	96	3	0	1	0	0	0
	平凡な	1	2	8	26	9	7	9	2	9	0	0	1	1	27	35	6	5	22	4
8	地味な	4	4	19	28	15	1	1	4	6	2	1	2	0	1	3	45	38	13	0
	派手な	33	10	2	7	0	0	1	0	2	3	20	22	98	1	1	0	0	0	0
9	おとなしい	11	6	22	18	5	1	6	9	11	3	2	3	0	7	79	8	3	2	1
	荒々しい	9	11	9	23	4	1	1	3	6	12	14	4	71	12	2	10	2	0	3
10	好感がもてる	14	6	11	9	3	6	7	5	32	2	0	2	28	48	21	0	0	3	0
	好感がもてない	2	2	4	12	5	3	5	3	3	7	40	5	41	3	2	29	16	7	2
11	粗野な	6	2	14	8	9	4	1	5	12	4	13	6	25	9	4	37	9	6	10
	洗練された	3	1	2	4	2	4	4	12	38	4	6	3	38	25	15	4	1	14	3
12	親切な	20	26	16	6	7	8	0	4	5	3	0	4	17	53	26	3	0	1	0
	不親切な	4	0	3	5	2	2	3	4	7	14	35	10	36	8	7	25	13	10	1
13	人のよい	10	10	20	10	10	11	9	5	9	1	0	2	10	48	37	2	0	1	2
	人の悪い	0	3	4	11	2	2	2	2	4	15	31	7	28	2	1	39	13	13	4
14	陰鬱な	4	3	3	12	5	3	4	6	13	8	10	9	7	1	3	44	25	19	1
	朗らかな	12	14	31	14	10	3	1	2	4	1	1	7	39	45	16	0	0	0	0
15	弱気な	2	1	12	16	19	7	5	9	10	5	4	1	1	3	79	1	7	9	0
	強気な	44	9	5	8	4	2	0	7	7	2	3	5	90	1	1	4	0	4	0
16	不潔な	6	5	13	26	14	2	0	3	4	5	4	2	2	1	0	43	38	11	5
	清潔な	2	1	1	1	4	4	7	16	31	1	1	1	8	25	37	0	0	29	1
17	物わがりのよい	4	6	3	10	4	25	7	12	15	3	1	2	25	39	24	4	0	2	6
	頑迷な	2	8	4	6	5	5	3	7	8	13	7	8	17	9	6	35	9	13	11
18	強い	38	7	0	2	1	4	2	6	10	1	3	3	59	1	0	17	0	22	1
	弱い	12	6	14	19	14	1	3	5	7	2	2	3	0	1	85	1	1	12	0
19	生意気な	10	10	6	11	3	1	1	2	4	13	29	7	81	9	1	5	1	1	2
	生意気でない	13	5	22	9	11	4	8	6	6	3	1	7	4	21	65	5	0	4	1
20	友好的な	13	15	19	10	11	12	0	4	6	2	0	8	28	48	22	2	0	0	0
	戦闘的な	44	7	0	4	5	1	4	1	5	2	10	8	71	2	1	16	1	7	2
21	無愛想な	0	2	8	6	13	9	3	4	15	6	7	8	6	1	4	51	19	17	2
	愛想のある	21	18	25	13	2	6	2	2	1	0	0	9	28	51	18	2	0	1	0
22	緊張した	10	3	3	10	3	2	3	13	25	7	4	1	57	11	6	8	2	12	4
	ゆったりした	12	14	19	13	5	10	5	9	2	3	1	4	6	40	49	1	1	1	2
23	礼儀正しい	4	7	2	3	6	11	11	6	27	2	3	2	36	26	13	8	1	13	3
	ぶしつけな	7	6	5	8	6	1	2	2	4	5	40	7	58	5	4	19	7	3	4
24	近づきたい	3	2	1	1	2	3	4	4	8	13	27	15	40	5	0	28	10	15	2
	人なつこい	11	19	26	12	5	5	3	2	1	1	1	12	23	55	20	0	0	2	0
25	神経質な	4	3	3	11	2	5	5	6	15	16	13	1	37	19	17	8	3	13	3
	のんきな	10	16	21	28	7	4	5	2	2	1	0	3	12	30	49	6	2	1	0
26	静かな	3	1	3	5	6	5	3	22	33	9	3	1	3	18	60	10	3	6	0
	にぎやかな	12	34	24	18	4	1	0	2	2	0	2	1	95	4	1	0	0	0	0
27	あきっぽい	8	6	11	30	1	2	1	2	3	12	13	6	56	22	13	4	0	1	4
	長続きする	4	4	12	3	4	12	11	9	18	6	1	4	14	25	17	27	5	5	7
28	かわいらしい	58	13	6	1	1	1	0	1	1	0	0	18	1	34	65	0	0	0	0
	にくらしい	4	4	2	10	4	0	2	3	5	9	35	11	32	5	3	40	9	3	8

表4-2 色相・トーン別出現率 (29 ~ 56)

No	イメージ用語	色 相												ト ー ン					(単位：%)	
		2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	v	lt	p	dk	g	Gy	無答
		29	落ち着いたある 落ち着いたない	4	7	5	4	6	8	10	6	26	6	2	3	15	13	14	40	5
30	軽薄な 重厚な	4	2	1	21	8	1	2	4	12	11	27	3	45	21	27	3	0	1	3
31	感情的な 理性的な	62	8	6	4	0	1	0	1	2	1	4	10	92	5	1	1	0	0	1
32	大胆な 小心な	38	10	13	4	3	3	1	1	6	2	9	10	97	3	0	0	0	0	0
33	円満な かどのある	15	21	30	9	7	4	2	3	2	0	0	5	26	46	25	1	0	1	1
34	うきうきした 沈んだ	17	12	30	19	5	2	3	4	1	0	1	6	50	40	10	0	0	0	0
35	図々しい 遠慮深い	13	10	9	11	5	2	4	1	3	11	21	8	79	6	0	12	1	1	1
36	狭量な 度量のある	5	2	5	13	9	1	2	4	7	5	14	4	13	6	25	19	8	13	16
37	健康的な 病的な	16	14	28	9	9	6	3	3	10	0	0	1	70	28	1	0	0	0	1
38	卑屈な 堂々とした	2	5	5	11	13	3	3	5	8	6	21	5	15	7	8	33	24	10	3
39	だらしない きちんとした	2	0	8	27	9	0	4	1	5	6	20	6	14	7	10	30	27	6	6
40	庶民的な 貴族的な	2	15	22	21	13	10	2	3	5	0	0	0	17	32	22	20	2	2	5
41	強情な 妥協的な	21	5	2	5	4	3	5	6	5	6	12	15	59	0	0	27	3	9	2
42	信じやすい 疑い深い	13	8	4	16	9	9	10	5	7	3	0	2	7	26	50	3	0	9	5
43	几帳面な ずさんな	0	1	7	9	8	5	9	11	32	3	4	1	42	26	12	9	1	7	3
44	こせこせした おうような	4	2	2	15	7	5	2	5	7	4	9	5	26	14	8	14	5	4	29
45	不活発な 活発な	4	5	12	18	9	7	4	5	7	6	3	2	3	0	16	41	22	16	2
46	抜け目のない まのぬけた	9	6	7	6	5	5	3	6	20	1	17	1	61	10	1	12	2	6	8
47	気分の動揺する 気分の安定した	15	8	5	13	3	4	2	4	5	11	14	7	49	13	15	11	3	5	4
48	気さくな 気難しい	7	5	20	21	13	12	5	7	5	0	0	4	33	44	21	1	0	0	1
49	根気のよい 根気のない	4	4	8	8	12	13	12	11	16	3	0	2	33	12	11	32	5	3	4
50	うぬぼれの 自己卑下の	18	11	1	7	4	0	1	1	4	7	24	16	73	14	5	1	1	2	4
51	やわらかい かたい	28	20	22	11	1	6	1	1	3	0	0	6	0	11	88	0	0	1	0
52	魅力のある 魅力のない	16	5	6	4	6	1	0	6	14	1	9	27	59	26	8	2	0	1	4
53	飾り気のない 見栄ばりの	4	9	10	16	6	2	4	5	9	1	1	1	10	4	24	18	12	32	0
54	暗い 明るい	2	1	2	7	2	0	0	2	8	9	7	3	0	0	1	29	13	57	0
55	感じのよい 感じの悪い	14	9	14	10	6	5	4	5	20	7	0	3	13	46	36	1	1	3	0
56	無分別な 分別のある	6	5	2	4	4	5	1	7	7	8	24	5	36	15	10	11	6	6	16
	計	1300	830	1025	1268	635	489	411	571	1146	600	1022	684	3847	1717	2031	1719	667	858	361

「感じのよい—感じの悪い」をはじめとする lt トーンと dk トーンの対には、p や lt トーンと dk トーンの彩度差が小さく、明度差が大きいことから、彩度の影響は小さく、明度が大きく関与すると考えられる。

高彩度の v トーンと高明度・低彩度の p トーンの組み合わせで出現した「大胆な—小心な」「奇抜な—平凡な」「にぎやかな—静かな」「積極的な—消極的な」「強気な—弱気な」などには、明度と彩度の両方の属性が関与しているといえる。また、同じく明度と彩度の両属性が関与していると考えられるイメージ用語対として「派手な—地味な」「活発な—不活発な」「陽気な—陰気な」「堂々とした—卑屈な」などがあげられるが、これらは v トーンと低明度・低彩度の dk トーンとの出現であり、明度については対極にあるといえる。このようにイメージ用語対は単純に両極性用語として与えられるが、そこに関与する色彩の属性は大きく異なり、この関係が明らかになれば、イメージの予測が可能になると考えられる。

要 約

対人認知に関わるイメージ用語を中心に取り上げ、それらのイメージに色彩の色相、明度、彩度の三属性がどのように関わっているかについて検討を行った結果、性格の自己認知および他者から見られたい性格について、今回対象とした学生は、自分を陽気な、女性的な、子供っぽい、平凡な、地味などと自己認知しており、特に他者から見られたい性格との間に大きな差が認められたのは、やさしい—きつい、積極的な—消極的な、上品な—下品な、大人っぽい—子供っぽい、好感がもてる—好感がもてない等のイメージ用語対であった。

また、これらのイメージと色彩が明確に結び付いた用語は、ほとんどが活動性の因子を持った用語であり、評価性の因子を持ったイメージ用語にはばらつきが認められた。さらに評価性の因子を持ったイメージ用語対はマイナスのイメージを与える用語の方が色彩との結びつきが強く、プラスのイメージ評価への関与は、被験者によって結び付く色彩が異なっているといえる。さらに、色相やトーンの影響について大半のイメージ用語対には色相よりトーンすなわち明度・彩度の方が大きく影響していることが判明した。

文 献

- 1) 石原久代, 鈴木妃美子: 名古屋女子大学紀要, 41, 37 ~ 43 (1995)
- 2) 石原久代, 鈴木妃美子: 名古屋女子大学紀要, 42, 11 ~ 32 (1996)
- 3) 石原久代: 名古屋女子大学紀要, 43, 23 ~ 30 (1997)
- 4) 大橋正夫他: 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 19, 93 (1973)
- 5) 石原久代: 家庭科教育, 68, 10, 68 ~ 72 (1994)